

エッセイ

「いわさきちひろの絵描きです」展を見て

藤盛 詔子

生誕一〇〇年・「いわさきちひろの絵描きです」と題した絵画展。

場所は東京ステーションギャラリー、九月半ば、台風の間をみて出かけてきました。ちひろの絵を生で見るのは初めてでした。

“花”“子供”“平和”をモチーフにしたやわらかなメルヘンの世界は、ちひろ独特の絵です。少女の輪郭をぼかした顔、スイカの種のような瞳、妖精のような幼い子供たち……。

水彩画独特のにじみが懐かしい。残された白い空間は、見る人にやさしさとかすかな哀しみを感じさせて切なくなりませす。

それらの絵には、わたくしの学ぶ俳画の技法にも共通するものがあるように思いました。没骨法(にじみ)潤筆(ほかし)濁筆(かすれ)などで勉強になりました。

色のグラデーションによるどの作品も心暖まる秀作ばかり。

「いわさきちひろの絵描きです。」は、のちに伴侶となった松本善明さんに、自己紹介したときの言葉だったそうです。秋になったら石神井にある「ちひろ美術館」をぜひ訪ねてみたいと思っています。

おわり



会員活動報告

● 神奈川歴史研究会創立35周年記念式典・講演会及び祝宴に参加

◇平成30年5月20日(日)、「ホテル横浜ガーデン」で開催。当会より、加藤会長以下16名が参加。記念講演会は歴史作家の関裕二先生、演題「壬申の乱と天皇」。五月晴れにも恵まれ、和気藹々と友好歴史グループとの親睦を深めた一日であった。

● 神奈川歴史研究会で招待講演

◇平成30年7月15日(日)、「藤沢市民会館」で当会理事の村島秀次氏が招待講演。演題「神功皇后実在論」29名参加。古代史ファンも多く、熱のこもった活発な議論が展開された。

● シニア活動の森 歴史講演会

◇平成30年9月27日(木)、「杜のホールはしもと」で当会副会長の竹村紘一氏が講演。演題「西郷隆盛と江戸城無血開城」約160名出席と盛会であった。後援 相模原市、相模原教育委員会。

● 著作刊行のご案内

当会理事の村島秀次氏が電子書籍を出版されます。仮題『もうひとつの古代史 電子版』(二十二世紀アート)。発売十一月下旬。価格八六四円(税込)。キンドル端末機器で購読が可能。

